

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01197

研究課題名(和文)越境する日蓮主義の基礎研究—トランスナショナル・ジェンダー・スピリチュアリティ

研究課題名(英文)Transgressive Nichirenism: Transnationalism, Gender, Spirituality

研究代表者

Godart G. Clinton (GODART, GERARD CLINTON)

東北大学・国際文化研究科・准教授

研究者番号：00778615

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて日本で流行した近代仏教運動である「日蓮主義」像を再考することを目的とした。これまでの研究では、日蓮主義のナショナリズムに焦点が当てられたが、本研究プロジェクトでは、日蓮主義が国家、ジェンダー、精神世界といった境界線にどのように挑戦したかを探ることを目的とした。研究の最大の発見のひとつは、ジェンダー認識の重要性と、女性が果たす役割の大きさであった。これは近代仏教の分野にとっても重要な発見である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、日本の近代化における近代仏教の重要性が研究者の注目を集めている。しかし、近代仏教の最も重要な運動の一つである日蓮主義は、ナショナリズム的な運動として一面的に理解されてきた。本研究プロジェクトでは、これまで知られていなかった側面や歴史的アクターを探ることで、この問題に取り組み、新しい日蓮主義像を構築した。とりわけ日蓮主義運動における女性の重要な役割を明らかにした。近代仏教史の中で女性を中心に据えることは、宗教、近代化、社会という大きな課題の理解にとって重要な社会的意味を持つ。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to reconsider the image of Nichirenism, a modern Buddhist movement popular in Japan in the late nineteenth and early twentieth centuries. Whereas previous research tended to focus on the nationalist character of Nichirenism, this research project aimed to explore the ways Nichirenism challenged boundaries such as of the state, gender, and the spiritual world. One of the biggest findings of our research was the importance of gender perception and the larger roles that women played. This is a finding that is also very significant for the field of modern Buddhism.

研究分野：宗教学

キーワード：日蓮主義 宗教学 近代仏教

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

## 1 研究開始当初の背景

近年、近代仏教研究が盛んになっているが、その中で近代日本社会に大きな影響を与えた日蓮主義運動も注目を集めている。戦後の日蓮主義研究の多くは、政治的な視点から、ナショナリズムや国家との関係という観点から行われ、日蓮主義は概ね否定的に評価されてきたが、2000年以降、近代仏教研究が大きく進展し、宗教学や宗教社会学などの観点から日蓮主義研究が行われるようになった。しかし、これまでの研究や国家主義的パラダイムの影響により、日蓮主義と女性との活発な関わり、スピリチュアリズムの側面、海外の新しい考えや人々との先進的な関わりなど、いくつかの疑問や側面については未解決の課題があった。こうした課題は、日蓮主義研究にとどまらず、日本の近代仏教研究にもあてはまる。そのため、上記の課題に取り組むことは、日蓮主義研究を進展させるだけでなく、近代仏教研究全体の発展やそのパラダイムシフトに結びつくと考え、本研究プロジェクトの構想に至った。

また、これまでの近代仏教研究では真宗が中心に取り上げられてきた傾向が強かった。近代真宗研究に取り組む研究者の数も多い。それに対して、日蓮主義研究者の数は少ないが、近年、研究成果が増加している。しかし、日蓮主義研究者は共同研究をする機会が少なく、個別に研究が行われてきた。そのため、国内外の日蓮研究者、日蓮主義研究者が共同で研究を進めることが求められてきた。

## 2 研究の目的

このような問題関心から、本研究の目的は、日蓮主義を根本的に問い直し、新しい日蓮主義像を描くことである。そのため、国家主義の側面を否定せず、より多角的な視点に立ち、日蓮主義運動の多面的な姿をより明確にすることを目指した。今までの日蓮主義研究にみられる、いわば「閉鎖的」なイメージと異なり、国や民族、ジェンダー、伝統など、様々なボーダーを超える、すなわち越境する近代仏教思想としての日蓮主義像を描き出すのが狙いである。とりわけ、①日蓮主義のトランスナショナルな活動、②日蓮主義におけるジェンダー観、女性の役割とフェミニズムの思想、③スピリチュアリティへの関心、という3つの視角から考察を加えることを目的とした。

### 3 研究の方法

本研究の方法は、主に次のような方法に沿って進められた。1) 国内外の資料調査にもとづく資料の収集・分析。とりわけ日蓮主義運動における主な運動家の女性観・ジェンダー論と積極的に活動した女性運動家の資料を収集した。2) 国内のワークショップの開催。各年度において、上述の3つのテーマを中心に、研究会を実施し、各自の調査の進捗状況を報告した。研究分担者の他、国内外の研究者などのゲストスピーカーも招待した。3) 他分野の研究者と交流し、意見交換を行った。ジェンダー論やトランスナショナルな史的研究などの最新の理論に基づいた、日蓮主義と近代仏教に関する新しい概念や研究方法基盤を構築することを目指した。プロジェクトメンバーが定期的に合同研究会を開催し、共通意識の形成および他分野の研究者との交流と意見交換をした。また、日本国内の全国学会（日本宗教学会など）でのメンバー各自の報告および国際学会（「AAS in Asia 2019」、「European Association of Japanese Studies 2021」、「東アジア日本研究者協議会第4回国際学術大会、2019年」）でのパネルセッションも行った。

### 4 研究の成果

本研究プロジェクトの成果としては、次の2点が挙げられる。

#### (1) 日本国内における資料の調査・収集・整理

ブレニナは、田中智学主宰の雑誌『妙宗』（1897年～1910年）の分析に取り組み、その全号の目次総覧を作成した。大谷は皇族出身の日蓮宗の尼僧・村雲日栄が結成した村雲婦人会の雑誌『村雲婦人』（1906～1912年。ただし、欠号多し）を東京大学総合図書館、京都府立京都学・歴史館で閲覧し、その分析を行った。ゴダールは国柱会などのアーカイブで日蓮主義系の軍人の佐藤鉄太郎と小笠原長成、東亜連盟運動の小泉菊枝の一次資料を収集し、分析した。君島は、日蓮の名跡とされる場所に建立された日蓮像を現地において調査した。

#### (2) 著書・論文などの研究成果の公刊（以下を参照）

本プロジェクトの成果としては、各メンバーが積極的に活動したため、多くの論文の発表・刊行ができた。

その中で、本研究プロジェクトにおいて最も進展させることができたのは、日蓮主義におけるジェンダー観、女性の役割とフェミニズムの思想という観点からの分析である。大谷は先行研究が少ない村雲日栄と村雲婦人会の活動を取り上げて、日蓮主義による女性教化の特

徴を明らかにした。君島は、近代の日蓮像を研究対象にして、日蓮主義とマスキュリニティを検討した。ブレニナは主に松平俊子の事例研究を行い、近代エリート層の女性における日蓮信仰と宗教的実践の特徴を明らかにした。ゴダールは、東亜連盟運動において中心的な役割を果たした小泉菊枝と東亜連盟女性部の思想と活動を明らかにした。以上の各メンバーのジェンダー研究の他に、日本仏教研究の第一人者であるプリンストン大学のジャクリン・ストーン教授が加わって、前近代から近代までの日蓮宗における女性の役割に関する総括的な論文が執筆された。これらの研究成果は、国際日本文化研究センターから発行される英文雑誌 *Japan Review* において、特集“Women, Gender, and the Study of Modern Buddhism”として掲載される予定である。

次に、日蓮主義者のトランスナショナルな活動の思想的背景や、その基盤をなす思想的要素については、大谷は『日蓮主義とはなんだったのか』（講談社、2019年）を刊行し、近現代日本における日蓮主義に関する通史を提示し、日蓮主義研究に大きく貢献ができた。また、研究成果を共著論集の中で発表することができた（石井公成監修、近藤俊太郎・名和達宣編『近代の仏教思想と日本主義』法藏館、2020年）。ブレニナは、田中智学における「日本による世界統一」というビジョンを分析し、その中にみられる日本中心主義と世界主義の併存の思想的要因を明らかにした。ゴダールは、石原莞爾が指導した東亜連盟運動と日本主義との衝突を検討した。上述の研究により、メンバーが日蓮主義とナショナリズムとの関係を再考した。

また、スピリチュアリティの観点に関しては、ブレニナは、田中智学の主著『妙宗式目講義録』（全5巻、のちに『日蓮主義教学大観』に改題）の中で語られる九識心王の日蓮という智学独自の論に着目し、そうした日蓮の位置づけが宮沢賢治に与えた影響、特に賢治において顕著にみられる靈的宇宙観との関連性を検討し、その成果を共著論集の論文として発表した（花野充道博士古稀記念論文集刊行会編『日蓮仏教とその展開』山喜房佛書林、2020年）。ゴダールは、従来検討されなかった日蓮主義と観音信仰との関係を調査し、海軍軍人の佐藤鉄太郎と小笠原長生の観音信仰を明らかにした。大谷は前掲の『日蓮主義とはなんだったのか』で石原莞爾、井上日召、北一輝の「靈的日蓮主義」について言及した。また、佐藤弘夫が、古代から現在まで、日本人と祖先や神との関係を総括的に考察して、『日本人と神』（講談社現代新書、2021年）の通史を刊行した。

一方、本研究プロジェクトの期間が新型コロナウイルス感染症の流行と重なったため、海外での資料調査（アメリカの Southern Illinois University やイギリスの UCL のアーカイブ、九州大学のアーカイブ）は実施できず、日蓮主義者のトランスナショナルな活動の分析については、当初予定していた日蓮主義者の欧米での活動の実態や欧米の人物との交流などの点が残されていて、今後の課題として取り組む予定である。

そのほか、本研究プロジェクトの中で、当初予定になかった新たな観点と側面の重要性が浮き彫りになった。それは、主にメディア研究とマテリアル・カルチャーであろう。ブレニナは、日蓮主義宣伝映画の制作や雑誌メディアの流通、様々なメディアによる日蓮イメージの形成および拡散過程などに関する論文を発表した。また、雑誌『妙宗』での「日蓮主義」という語の用例分析により、その造語背景や初期の用法の変遷を明らかにすることができた。大谷は日蓮主義者が尽力して実現した立正大師諡号宣下（1922年）から100年目にあたる2021～2022年に、その歴史的意義を考える講演を3回行い、本研究プロジェクトの成果を広く社会に発信した。ゴダールと君島が、観音信仰や仏像についての研究に、近現代仏教における観音信仰研究プロジェクトとして取り組み、その成果を編集書として刊行する予定である。

最後に要約すると、本研究において主に明らかになったのは、以下の3点である。1) 近代仏教とジェンダーの重要性: 日蓮主義者の女性観・男性観と近代仏教における女性が果たした役割は極めて大きかった。2) 日蓮主義の多様性: これまでの研究では、日蓮主義をひとつの運動として扱う傾向が強かったが、日蓮主義の中にも多くの多様な潮流があり、それらは時に無関係で、複雑に交錯していることが明らかになった。3) 日蓮主義と伝統的な仏教との関係: 日蓮主義は「近代仏教」の運動だったが、日蓮主義者と伝統的な仏教の形式や組織とはさまざまな関係もあった。例えば観音信仰がそれにあたるであろう。

以上、本研究は日蓮主義研究だけでなく、近代日本仏教史研究にも大きく貢献した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 大谷栄一	4. 巻 28
2. 論文標題 「リブライ 日蓮主義と近代仏教研究の更新に向けて」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『近代仏教』	6. 最初と最後の頁 124-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ブレニナ・ユリア	4. 巻 41
2. 論文標題 「近世末期・近代における日蓮像の構築の一側面 辻説法に着目して」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『同朋大学佛教文化研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤弘夫	4. 巻 65
2. 論文標題 彼岸への階段ー『陸奥国骨寺村絵図』のコスモロジー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 44 53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤弘夫	4. 巻 4
2. 論文標題 祖霊は山に住むかー「日本人と神」再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ひらく	6. 最初と最後の頁 54 - 63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ユリア・ブレニナ 上田学	4. 巻 43
2. 論文標題 「日蓮主義宣伝映画について 立正活映資料および『鍋かぶり日親』を中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館『演劇研究』	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ブレニナ・ユリア	4. 巻 93
2. 論文標題 「日蓮門下と記念事業 降誕七〇〇年から六五〇遠忌への道程」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『宗教研究』	6. 最初と最後の頁 77-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤弘夫	4. 巻 -
2. 論文標題 現人神の誕生－近代天皇の宗教的権威	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『私の天皇論』	6. 最初と最後の頁 268 - 292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤弘夫	4. 巻 74
2. 論文標題 Mrtvi nas pozorne sleduji katastrofa a spasa v Japonsku	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Novy Orient	6. 最初と最後の頁 32 - 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤弘夫	4. 巻 51
2. 論文標題 「陸奥国骨寺村絵図」のコスモロジー」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本思想史研究	6. 最初と最後の頁 3 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 G. Clinton Godart	4. 巻 49
2. 論文標題 Brian J. McVeigh, The History of Japanese Psychology: Global Perspectives, 1875-1950	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asian Science, Technology, and Medicine	6. 最初と最後の頁 126-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 G. Clinton Godart	4. 巻 32
2. 論文標題 "Curse on this Country: The Rebellious Army of Imperial Japan, by Danny Orbach"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japan Review	6. 最初と最後の頁 205-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15055/00007211	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ゴダール・クリントン	4. 巻 -
2. 論文標題 「日蓮主義と日本主義との衝突 日中戦争期における東亜連盟運動」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近代の仏教思想と日本主義』 (著作)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計45件（うち招待講演 18件 / うち国際学会 16件）

1. 発表者名 大谷栄一
2. 発表標題 “Nichirenist's View of Women”
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yulia BURENINA
2. 発表標題 “Matsudaira Toshiko and Nichirenism: A Story of Faith and Practice of a Noble Woman”
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 G. Clinton Godart
2. 発表標題 "Without the Salvation of Women, No Faith in the Lotus Sutra" Koizumi Kikue's Nichirenism
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ユリア ブレニナ
2. 発表標題 「なぜ日蓮は辻説法をしたと語られているのか：日蓮像の構築と日蓮主義」
3. 学会等名 Global Japanese Studies Research Workshop 4月例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ユリア プレニナ
2. 発表標題 「明治期の仏教と印刷メディア」 立正安国会の機関誌『妙宗』に着目して 」
3. 学会等名 メディア史研究会第314回月例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ユリア プレニナ
2. 発表標題 「日蓮主義という用語について 造語背景・使用例・意味的变化 」
3. 学会等名 第29回日本近代仏教史研究会研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ユリア プレニナ
2. 発表標題 「近代の日蓮仏教における聖徳太子像の種々相」
3. 学会等名 東北大学日本学研究会第3回学術大会 国際シンポジウム「聖徳太子の近代」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 G. Clinton Godart
2. 発表標題 「ユートピアと帝国の狭間 感情史から見た小泉菊枝の『満州人の少女』」
3. 学会等名 科研プロジェクト「共感の共同体」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 G. Clinton Godart
2. 発表標題 「ダーウィン、仏教、神 近代日本の進化論と宗教」
3. 学会等名 日本思想史学会、2021年11月6日
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 君島彩子
2. 発表標題 「モニュメントとしての観音像の成立」
3. 学会等名 東北大学大学院国際日本研究講座公開講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 君島彩子
2. 発表標題 「近代美術の中の仏教」
3. 学会等名 娯楽と日本仏教プロジェクト 第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 君島彩子
2. 発表標題 「近代日本画に描かれた仏教 仏教表象における身体表現の性差」
3. 学会等名 第29回日本近代仏教史研究会研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Clinton Godart
2. 発表標題 Nichiren Buddhism in Modern Japan
3. 学会等名 Hokkaido University Modern Japanese Studies Program Guest Lecture Series (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 クリントン・ゴダール
2. 発表標題 小笠原長生と近代日本の観音信仰
3. 学会等名 日蓮主義勉強会 大3回 「日蓮主義とスピリチュアリティ」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大谷栄一
2. 発表標題 「リブライ」
3. 学会等名 第24回「仏教と近代」研究会「『日蓮主義とはなんだったのか』とは何か」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大谷栄一
2. 発表標題 「日蓮主義研究の新たな展開に向けて」
3. 学会等名 立正大学日蓮教学研究所第60回仏教講座(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大谷栄一
2. 発表標題 「近年の「近代仏教とメディア」研究の動向」
3. 学会等名 日蓮主義勉強会 第4回研究会「日蓮主義・近代仏教・メディア」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤弘夫
2. 発表標題 追放された神々-文明史からみる ポスト3・11
3. 学会等名 退溪学釜山研究院主催・退溪学国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤弘夫
2. 発表標題 The Proliferation of Living Gods and the Birth of Sacred Tenno
3. 学会等名 The 6th Annual Hasekura International Japanese Studies Symposium Yonaoshi: Envisioning a Better World (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 日蓮主義研究の動向・課題・展望 「日蓮主義とはなんだったのか」を明らかにするためのアプローチ（単独）
3. 学会等名 第24回「仏教と近代」研究会「『日蓮主義とはなんだったのか』とは何か」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 日蓮主義研究の動向・課題・展望
3. 学会等名 東北大学国際文化研究科国際日本研究講座・公開講演（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 日蓮主義の印刷メディア 機関誌『妙宗』（1897-1910）に着目して
3. 学会等名 日蓮主義勉強会 第4回研究会「日蓮主義・近代仏教・メディア」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 日蓮主義と九識論
3. 学会等名 第27回日本近代仏教史研究会（於東洋大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Burenina Yulia
2. 発表標題 'Out of a Doll's House': Tracing the Path of Nichirenist Women"
3. 学会等名 Panel Session "Rising Lotus: Rethinking Nichirenism in Twentieth Century Japan and East-Asia," AAS in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 日蓮門下と記念事業 降誕七〇〇年から六五〇遠忌への道程
3. 学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 日蓮主義と映画 立正活映を中心に
3. 学会等名 「越境する日蓮主義の基礎研究」日蓮主義勉強会第1回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 パネル「近代日本の日蓮主義における信仰とプラクティス」へのコメント
3. 学会等名 第4回東アジア日本研究者協議会国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 日蓮主義と女性 松平俊子を中心にして
3. 学会等名 第70回佛教史学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 日蓮主義と映画 立正活映の映画製作と配給網に着目して
3. 学会等名 公開研究会「宗教映画とスクリーン・プラクティス」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 日蓮像との比較から
3. 学会等名 第22回「仏教と近代」研究会、大澤絢子『親鸞 六つの顔はなぜ生まれたのか』書評会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ブレニナ・ユリア
2. 発表標題 松平俊子と日蓮主義 華族女性の信仰とプラクティス
3. 学会等名 「越境する日蓮主義の基礎研究」日蓮主義勉強会第2回「日蓮主義における女性とジェンダー」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 SATO Hiroo
2. 発表標題 The Watchful Gaze of the Dead
3. 学会等名 Hasekura League Symposium（ポローニャ大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 佐藤弘夫
2. 発表標題 彼岸への階梯－「陸奥国骨寺村絵図」のコスモロジー
3. 学会等名 中世文学会2109年度秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SATO Hiroo
2. 発表標題 The Watchful Gaze of the Dead－ Catastrophe and Salvation in Japan
3. 学会等名 Eight Years On: Scholars' Efforts to Reclaim Culture since the Great East Japan Earthquake (Oriental Institute of the Czech Academy of Sciences)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤弘夫
2. 発表標題 現人神の誕生
3. 学会等名 国際シンポジウム：天皇制と日本(北京日本学研究中心)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SATO Hiroo
2. 発表標題 The Chatting Dead: The Changing Concept of the World After Death in Japan
3. 学会等名 The 2nd Indonesia- Japan Scientific Forum International Symposium on Japanese Studies（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤弘夫
2. 発表標題 目に見えぬものとの遭遇－日本仏教における見仏と来迎
3. 学会等名 西日本宗教学会シンポジウム： 行と経験（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大谷栄一
2. 発表標題 「『日蓮研究は愉快なる一事業にこれあり候』 高山樗牛と日蓮主義」
3. 学会等名 近代仏教史講演会「仏教と学知」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 OTANI Eiichi
2. 発表標題 " The Development of Nichirenism in East Asia in the First Half of the Twentieth Century "
3. 学会等名 Panel Session "Rising Lotus: Rethinking Nichirenism in Twentieth Century Japan and East-Asia," AAS in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ゴダール・クリントン
2. 発表標題 「日蓮主義、日本主義、軍人=石原莞爾と海軍軍人の比較研究」
3. 学会等名 第2回「近代の仏教思想と日本主義」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ゴダール・クリントン
2. 発表標題 「東亜連盟運動と小泉菊枝」
3. 学会等名 東アジア日本研究者学術協議会 (台北) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 G. Clinton Godart
2. 発表標題 "Aspiring to Singularity: Nichirenist hopes for the Unification of Space, Gender, and Mind"
3. 学会等名 Panel Session "Rising Lotus: Rethinking Nichirenism in Twentieth Century Japan and East-Asia," AAS in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 G. Clinton Godart
2. 発表標題 Religious Receptions of Darwinism in Modern Japan
3. 学会等名 Second East Asian Society for the Scientific Study of Religion (EASSR) (Sapporo) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ゴダール・クリントン
2. 発表標題 「東亜連盟運動の女性達」
3. 学会等名 「越境する日蓮主義の基礎研究」日蓮主義勉強会第2回「日蓮主義における女性とジェンダー」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 G. Clinton Godart
2. 発表標題 Lotus of Steel: Buddhist Utopianism in the Imperial Army and Navy
3. 学会等名 International Symposium on Japanese Studies, Thammasat University, Bangkok (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 君島彩子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 260
3. 書名 『観音像とは何か 平和モニュメントの近・現代』	

1. 著者名 君島彩子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 -
3. 書名 「仏像から考える日本の「宗教」と「美術」」伴野文亮・茂木謙之介編『日本学の教科書』（文学通信、2022年3月）、印刷中	

1. 著者名 佐藤弘夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 敬文舎	5. 総ページ数 23
3. 書名 「聖徳太子と疫病神－現代社会における神のゆくえ」小路田泰直・斎藤恵美（著）『聖徳太子像の再構築』	

1. 著者名 佐藤弘夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 266
3. 書名 『日本人と神』	

1. 著者名 Clinton Godart	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Hawai'i Press	5. 総ページ数 300
3. 書名 Buddhism and Modernity: Sources from Nineteenth-Century Japan (Orion Klautau and Hans Martin Kramer, Eds), 担当 “Tanaka Chigaku: A Buddhist Theory of Marriage” (Introduction and translation)	

1. 著者名 Clinton Godart	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 311
3. 書名 Evan Dawley and Tosh Minohara (Eds.) Beyond Versailles: Reverberations of the “1919 Moment” in Asia 担当: “Future War and Future Peace after 1919: Ishiwara Kanji and the Imperial Japanese Army in the Wake of World War I”	

1. 著者名 クリントン・ゴダール	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 556
3. 書名 石井公成監修・近藤俊太郎・名和達宣編『近代の仏教思想と日本主義』（法蔵館、2020年）担当「日蓮主義と日本主義との衝突―日中戦争期の東亜連盟運動」	

1. 著者名 佐藤弘夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山喜房仏書林	5. 総ページ数 829
3. 書名 仏教思想の展開（担当：『立正安国論』の近代一二つの「立正安国」の論理とそのゆくえ）担当「総論 大正宗教史の射程」	

1. 著者名 大谷栄一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 288
3. 書名 『近代日本宗教史 第三巻 教養と生命 大正期』（島蘭進・末木文美士・大谷栄一・西村明編）	

1. 著者名 大谷栄一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 354
3. 書名 『ハンドブック近代日本政治思想史 幕末から昭和まで』（長妻三佐雄・植村和秀・昆野伸幸・望月詩史編）担当範囲 「田中智学（一八六一～一九三九）」「日本による世界統一」を目指した日蓮主義者」（90～91ページ）、「日蓮主義 超国家主義に影響を与えた近代仏教思想」	

1. 著者名 ユリア・ブレニナ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山喜房佛書林	5. 総ページ数 829
3. 書名 『日蓮仏教とその展開』（花野充道博士古希記念論文集刊行会編）担当範囲 「日蓮主義と九識論 田中智学と宮沢賢治における九識心王の日蓮をめぐって」	

1. 著者名 ユリア・ブレニナ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 556
3. 書名 (石井公成監修、近藤俊太郎・名和達宣編) 『近代の仏教思想と日本主義』担当 「日蓮主義と日本主義 田中智学における「日本による世界統一」というビジョンをめぐる」	

1. 著者名 Julia Burenina	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 391
3. 書名 “Japanese Responses to Evolutionary Theory, with Particular Focus on Nichiren Buddhists” in Asian Religious Responses to Darwinism: Modern Evolutionary Theories in Middle Eastern, South Asian, and East Asian Cultural Contexts, ed. by C. Mackenzie Brown	

1. 著者名 佐藤弘夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 306
3. 書名 『アマテラスの変貌』(法蔵館文庫)	

1. 著者名 大谷栄一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 674
3. 書名 『日蓮主義とはなんだったのか 近代日本の思想水脈』	

1. 著者名 大谷栄一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ペリカン社	5. 総ページ数 352
3. 書名 『近代仏教というメディア 出版と社会活動』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 弘夫 (Sato Hiroo) (30125570)	東北大学・文学研究科・名誉教授  (11301)	
研究分担者	BURENINA YULIA (Burenina Yulia) (60763993)	大阪大学・日本語日本文化教育センター・特任講師(常勤)  (14401)	
研究分担者	大谷 栄一 (Otani Eiichi) (70385962)	佛教大学・社会学部・教授  (34314)	
研究分担者	君島 彩子 (Kimishima Ayako) (90875296)	東北大学・国際文化研究科・JSPS特別研究員(RPD)  (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies, Panel "The Dragon King's Daughters in Modern Japan: Women and Gender in Nichirenism"	開催年 2021年～2022年
--	--------------------



8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------